職業訓練大学校　初代校長
（※現 職業能力開発総合大学校）
成瀬　政男

創刊号　デジタルアーカイブ

技能の火　技術の火

1　長いあいだ歯車を研究してきたわたくしは，一つの研究がおわってこれを学会誌に発表すると，そのあと，この研究論文を平易に書きあらためる。そしてこれを工業雑誌にのせる。

ここでわたくしの経験したことは，学会誌にのせた研究論文よりも，工業雑誌にのせた文章のほうが，よけいに人の心にふれることができたということである。

学会誌にのせた研究論文は，当然のことながら，専門家を目当てにして，その記述をすすめていくのである。したがってそこでは，これまでにほかの研究者が論じおわったことには，もう触れないようにする。自分の研究したものだけをのべるようにする。またその記述にあたっては，厳密に定義された術語をつかうけれども，そのものの解説までにはふれることはない。数式も導きだすはじめのところと，結果のところと，その意味とは厳密詳細に書く。しかし途中の誘導計算のところは，よしそれがむずかしいことであったとしても書くことは遠慮する。途中の誘導計算のところは新しいことではないからである。

2　したがって一般の人たちにとっては，研究論文を読むことは，楽なことではない。一般の人たちばかりではない。専門家といっても，他人の研究論文を読むことは，たやすいことではない。

研究者の書いた研究論文の記事は，表面にあらわれている事柄を書きつづるのがふつうのことである。そこには研究者の心の奥底で起伏したことまでは書かれてはいない。どのような動機や機会から，このような研究の糸口が生まれてきたのか，またどのような連想をへて，この結果にたどりついたのか，研究論文では一般にこのようなことまでも記述する習慣にはなっていない。またこのようなことを記す紙面も与えられていない。

しかしこのようなことがらがわからないで，ただ表面の文字だけをたどりつつ読むというのでは，他人の論文を読んだということとは遠い。その論文にのせられてある技術も技能も，その真随を知ることにも遠い。

こんなわけから，一般の読者はむろんのこと，専門家といっても，他人の論文を読みぬくことはそんなに楽なことではない。眼光紙背に徹するということは，まことにむずかしいことである。

3　そこでやさしい記述でつづられた学術の文章が必要になってくる。ここではその内容は研究論文と同じである。しかしそこに使われている言葉はわかりやすい。もしもむずかしい術語を使う必要のあるときには，注釈を加えて，これをわかりやすくする。もしも言葉で説明ができることならば，数式はなるべくさけるようにする。できれば式もグラフや数表化して，すぐにその利用ができるように記述する。文章の全体は易にはじまり，次第に難におもむくというようにする。いな，むしろ，易にはじまり，易に終わるようにする。それでいてその内容は高く，また広いようにする。どうしてこの研究が生まれてきたのか，どのような経験をへてこの研究が成長してきたのかということも記す。文章もきれいにする。全体にわたって，香気の満ちたものにする。

4　このようにするときには，これを読む読者の心に，変化が起こってくる。

いままでは手のとどかない高い崖の上にあった技能や技術の研究というものが，実はそうではなくて，常日頃いつも出入りしている実習場や教室の，いたるところに存在している，まことに平易なものの中にあるという感じに変わってくる。

これならば自分の手にもとどくところに，研究されるのを待っている技能や技術があるという感じになってくる。だれでもこの著者のいうように実行するときには，技能と技術の研究も，これをわがものとすることができる。それならばわれもまた，この著者にならって，技能と技術の研究にこころざそうということになってくる。

ひとたびこころざしが起こったときには，それはもう，しめたものである。その技能も，その技術も，大半は研究ができたということになる。

5　こころざしがあると，そのこころざしを果たそうという意欲の火が内心に燃えてくる。 内心のこの火を消さないようにして，大切に心の中におさめるにいたる。あるときに，ある機縁に触れて，この内心の火は急に燃えあがってくる。その機縁はなんであるかということは，あらかじめこれをいうことはできない。

しかし筆者の場合は，多くは日常の卑近に味わっている生活や仕事というものが機縁になっている。したがって，日常の仕事の多いということ，生活をみつめるということが，この機縁をより多く与えられることになる。

ひとたび内心に保たれていた火が，これらの機縁に出会うと，それはちょうど，火に油を注ぎかけたものになってくる。火は勢よく燃え広がる。この燃えひろがった火が働きかけて，筆者に研究をさせる原動力というものを与えてくれる。

読者諸賢もきっと筆者と同じような経験をもっておられることと思われる。

この「技能と技術」誌は，このようにして得られた読者の技能・技術の論文を載せていきたいと考えている。

（創刊号（1966年11月号）より抜粋）

原稿募集のお知らせ

「技能と技術」誌では職業訓練やものづくりにかかわる以下のような幅広いテーマで原稿を募集しています。執筆に関してのご相談は fukyu@uitec.ac.jp までお寄せください。また，記事に関するご意見やご感想もお待ちしております。

実践報告
各訓練施設における各種訓練コース開発，カリキュラム開発，訓練方法，指導法，評価法等の実践の報告

調査報告・研究報告
社会情勢や動向を調査・研究し，能力開発業務に関わる部分の考察をした報告

技術情報
技術的に新しい内容で訓練の実施に有用な情報

技術解説
各種訓練の応用に活かすための基礎的な技術を解説

教材開発・教材情報
各訓練コースで使用される教材開発の報告，教材に関する情報

企業の訓練
企業の教育訓練理念，体系，訓練内容，教材，訓練実践を紹介

実験ノート・研究ノート
各種の試験・実験・研究等で訓練に有用な報告，研究資料

海外情報・海外技術協力
諸外国の一般情報，海外訓練施設での訓練実践，教材等の情報

ずいそう・雑感・声・短信・体験記
紀行文，所感，随筆，施設状況等各種

伝統工芸
伝統工芸を伝承するための技能や人物を紹介